林業のコスト縮減に向けて

～低コスト化作業の普及～

網走南部森林管理署

【現状・課題・目的】

オホーツク管内は多くの人工林が主伐期を迎えており、主伐による素材生産量が増加しているが、民有林では伐採後の更新未済地も多く、その解消が課題となっている。

主伐後の再造林を確実なものとし、森林資源の循環利用と林業経営を継続させていくため、伐採・搬出・造林など林業全体の低コスト化を図っていくことが必要である。

【平成30年度の取組結果・成果】

①現地検討会の開催

○平成29年に伐採・造林一貫作業を大型機械地拵・コンテナ苗植栽により実行して１年を経過した現地において一貫作業の効果や課題等を把握するため現地検討会を開催した。

昨年度の現地検討会のアンケート結果やコンテナ苗の状況、大型機械地拵での植生回復状況等について資料で説明を行い、これまでの実施状況等を踏まえ一貫作業による作業効率化などについて関係者と活発な意見交換を行った。参加者からは「コンテナ苗は民有林でも取り組んでいるが、全体的に苗木が不足している」「林業従事者不足が課題であり軽労化・省力化も重要」などの意見があった。

H29事業実施後

H30 １年経過

現地検討会の様子

②工程管理システム※の普及推進

○林業事業体に対して、昨年度の工程管理システムによる分析結果について、集材作業に対して伐倒・造材での機械使用率が低かったことを説明し、平成30年度の実行現場で引き続きデータ収集を行った。昨年より作業条件がよかったことから造材作業での機械使用率が上がり生産性が向上した結果となり、生産性を高めるための工程管理の必要性について理解を深めた。

※「工程管理システム」とは、パソコンを活用して、作業功程と生産コスト、機械ごとの作業功程を把握し、効率的な作業方法の検討を支援するソフトウエアです。

【成果】

○一貫作業システム実行後の現地がどのように推移していくか理解を深めてもらうことができた。

○オホーツク管内の民有林では平成30年度に一貫作業システムが約41ha（うち網走南部署管内民有林で約14ha）実行され、民有林において低コスト化に向けた取組が推進された。

○生産性向上を図るために工程把握を行うことの必要性について、理解を深めてもらった。

今後の取り組みで目指すところ

○伐採・造林一貫作業システムの取組や実績について地域での理解を深め、民有林への一層の普及を推進する。

○地域林業の軽労化・省力化に向けてコンテナ苗の活用等各種情報発信・普及を行う。

○工程管理システムの活用等生産性向上を図るための取組を推進する。

【今後の目標】

地域林業における主伐・再造林の低コスト化及び林業従事者の確保に向けた軽労化・省力化の推進